

社会部会 研究の構想（案）

平成28年度～

I 研究主題

広い視野に立って、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるにはどのようにすればよいか。

II 主題設定の趣旨

現代社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」であるといわれる。このような社会では、グローバル化が一層進み、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が重要になるとともに、一人一人が社会形成に参画することが必要とされる。そこで、社会科においては、広い視野に立って、日本や世界に関する基礎的教養を培い、様々な社会的事象を多面的・多角的に捉え、持続可能な社会の担い手として主体的に社会に参画していく資質や能力を育成することが求められている。

そのためには、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の習得に努めるとともに、それらを活用したり、主体的に課題を探究したりするための思考力・判断力・表現力等を身に付ける必要がある。このような観点から、習得すべき知識及び技能の明確化を図るとともに、指導と評価の一体化に配慮した指導過程と評価方法、思考力・判断力・表現力等を育てるための教材開発や学習活動の工夫・改善を図っていく。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえ、地理的分野、歴史的分野、公民的分野を有機的に関連させながら、知識及び技能の習得と活用を図る。
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を明確にし、評価方法を工夫・改善することで、指導と評価の一体化を図り、指導改善に生かす。
- (3) 多様な学習活動の工夫と言語活動の充実により、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成し、社会的な見方・考え方を養う。

2 研究内容

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえながら、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 単元全体の学習課題や基礎的・基本的な知識及び技能を明確にし、指導と評価の一体化を図る。S-P表等を活用した学力調査の分析結果についての情報交換を行い、全体の傾向を把握するとともに、今後の指導や評価問題の改善に生かす。
- (3) 社会の変化に対応し、主体的に学ぶ意欲や態度を育成するため、課題の設定や教材開発について工夫・改善を図る。
- (4) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、思考力・判断力・表現力等を育てる学習活動の工夫・改善を図る。

社会部会 平成30年度研究計画（案）

I 研究主題

- 広い視野に立って、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるにはどのようにすればよいか。
- 基礎的・基本的な知識及び技能を明確にし、指導と評価が一体となった指導過程や評価方法はどうか
 - 思考力・判断力・表現力等を育てるための教材開発や学習活動はどうか

II 主題について

今日の我が国では、震災からの復興に加え、少子高齢化と財政の健全化、持続可能なエネルギーの確保等、様々な分野において課題を抱えている。また、グローバル化が急速に進む中、貿易や安全保障等の在り方も新たな展開をむかえようとしている。社会科においては、変化の激しいこれからの社会を生き抜くことができるよう、広い視野に立ち、社会的事象を主体的に追究する生徒の育成がより一層求められる。そのためには、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を充実させることで、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力・判断力・表現力等の能力を育み、主権者として持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を養うことが必要である。

そこで、本年度は、習得すべき知識及び技能を明確にし、指導と評価の一体化に配慮した指導過程と評価方法の工夫・改善を図っていききたい。その際、単元全体の指導計画を構造化するとともに、学習内容に即した評価方法を工夫・改善することを重視する。また、習得した知識及び技能を活用する学習を取り入れるなど、思考力・判断力・表現力等の能力を育てるための有効な教材開発や学習活動についても研究を深め、主題の解明に迫りたい。

III 研究内容とその視点

1 指導計画の工夫

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえながら、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、地理的分野と歴史的分野の学習の基礎の上に公民的分野の学習を展開するという教科の基本的な構造と相互補完の関係を考慮し、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 単元全体で身に付けるべき基礎的・基本的な知識及び技能を明確にするとともに、1時間の授業においても付けたい力を明確にして、構造的な指導計画（知識の構造図等）を作成する。

2 指導と評価の一体化

- (1) 評価問題や学習カード等、基礎的・基本的な知識及び技能が身に付いたかどうかを捉えるための評価方法の工夫・改善を図る。
- (2) 評価を通して捉えた生徒の実態を基に、指導の工夫・改善を行うことで、指導と評価の一体化を図る。
- (3) S-P表等を活用した学力調査の分析結果についての情報交換を行い、全体の傾向を把握するとともに、今後の指導や評価問題の改善に生かす。

3 課題の設定や教材開発の工夫

- (1) 社会の変化に対応し、主体的に学ぶ意欲や態度を育成するため、生徒の実態を捉えた上で、興味・関心が高まるように教材を開発したり、単元構成や学習課題を工夫したりする。
- (2) 課題を追究したり解決したりする学習に積極的に取り組むとともに、作業的・体験的な学習の充実を図る。

4 学習活動の工夫

- (1) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、思考力・判断力・表現力等を育てる学習活動を充実する。意味、意義を解釈する学習、事象の特色や因果関係を説明したり根拠をもって自分の考えを論述したりする言語活動を取り入れた学習を工夫する。
- (2) 比較、関連付けることのできる資料を精選し、複数の資料に基づいて考えさせる学習活動を繰り返し行う。

5 各分野における視点

<地理的分野>

地理的事象に対する関心を高め、地理的な見方・考え方を働かせながら、日本と世界の諸地域の地域的特色について学ぶ地誌的な学習を充実させて、日本と世界の地理的認識を養う。

取り上げる地理的事象について、地理的事象の位置や広がり、その事象を成り立たせている背景や要因、その地域にみられる一般的共通性と地域的特殊性、その地域の構成の特色、地域の変容と課題や将来像等を視点に分析・整理する。身に付けるべき知識及び技能を明確にして、指導計画や評価方法を工夫・改善する。

地図や統計資料等を有効に活用して事象を説明する学習活動や、地理的事象を多面的・多角的に考察し、自分の解釈を加えて説明、論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させる。また、野外での観察や調査等の活動を効果的に取り入れて、地域的特色や地域の課題を見いだし考えるようにする。これらの学習を通して、主体的に地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を育てる。

<歴史的分野>

歴史的事象に対する関心を高め、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえながら我が国の歴史の大きな流れを理解し、我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考える力を養う。また、資料を活用し、歴史的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する能力と態度を育てる。

取り上げる歴史的事象については、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色等に着目し、他の時代との共通点や相違点を明確にして、我が国の歴史の大きな流れとどのように関連しているのかを分析・整理する。その上で、時代の特色や時代の転換に関わる歴史的事象を重視して指導内容を構成し、指導と評価の一体化を図る。

歴史的な見方・考え方を働かせ、歴史的事象の意味、意義や特色、事象間の関連を説明する、課題を設けて追究する、意見交換するなどの学習活動を指導過程に位置付けることで、思考力・判断力・表現力等を養うようにするとともに、学習内容の確かな理解と定着を図る。また、郷土の施設や人材を活用したり、身近な歴史上の人物や文化遺産を取り上げたりすることにも留意し、地域の具体的な事柄との関わりの中で主体的に学ぶことを通して、我が国の歴史に対する愛情を深め、歴史上の人物や文化遺産を尊重する態度を育てる。

<公民的分野>

現代の社会的事象に対する関心を高め、地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用し、民主政治の意義、国民の生活と福祉の向上と経済活動との関わり及び現代の社会生活等について理解を深める。その際、現代社会を捉える見方・考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正等について理解させるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。

現代の社会生活、暮らしと経済活動、民主政治の意義、国際社会の諸課題等について、個人と社会の関係の面から分析・整理する。その上で、地理的分野や歴史的分野で学んだ事項を関連させながら指導内容を構成するとともに、評価方法を工夫する。

統計資料や新聞等を積極的に利用し、習得した知識及び技能を活用して諸事象の意義を解釈し、事象間の関連を説明することや自分の考えをまとめて論述すること、また、議論を通して互いの考えを深めることを重視する。こうした学習を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、社会的な課題の探究を通して社会の形成に参画しようとする態度を育てる。

IV 研究方法

- 1 実践に当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえて、各郡市・地区の実情に応じて本年度の副主題から一つを選択し、上記の研究内容とその視点を基に研究に取り組む。
- 2 各郡市・地区ごとに、授業を進める上での悩みや課題について、実践事例研究や講習会等を通して共通理解を図り、解決に努める。研究授業と研究発表に当たっては、研究内容とその視点を基に、各郡市・地区の実情に応じた研修（協議会、ワークショップ等）に努め、研究を深める。
- 3 学力調査の結果について、S-P表等を活用して指導と評価問題の改善に生かす。

